

出会いの一時、永遠の宝に

千葉県花見川区 中村弘子(板倉村戸狩出身)

十月六、七日Jネットの農業体験、くわどり湯つたり村での「稲刈とはさがけ体験」に参加しました。会員でいらっしやる澤様のお誘いで重い腰を上げたという感じでしたが、だんだんその気になつて来て、すっかりはまってしまいました。子供の頃(五十年近くも前ですが)「稲刈り休み」があつて毎日毎日働いた記憶もなつかしく思い出されましたが、はたして自分の手で刈れるのだろうかと不安でした。

田圃提供して下さった曾我様が弓形になつたのこぎり鎌で「サクツ・サクツ・サクツ・サクツ」と指導をして下さる音を聞いて、体の中に眠つていた何かが目をさましたような気がして来ました。よし、まかせておいて!!昔つた杵柄だもの、と「サクツサクツ」あれえ、ザク、ザク、あとは御想像下さい。でも最

後のほうは、リズム感も良く、気持ち良くて前進することが出来ました。
黄金色の穂波の田圃は二時間くらいで刈り取られ昼食をはさんで、次は「はさ」がけです。八段位の高さに作つて下さった「はさ」に六・四位に分けられた稲束がどんどんかけられていく様は、収穫の喜びを感じられる瞬間です。腰の痛いの暑いのも忘れて、気持ちの良い汗を流すことが出来ました。昼食の零余子入り



おにぎりとなつかしい「のっぺ」、「すいき」の酢の物、初めての高原あざみの煮びたし等山菜のおかずは終生忘れることの出来ない味になりました。私のメニエーのレパートリーも一つ増えて、これからは山菜中心のダイエツトをとり入れていこうと考えています。何しろ美(医)食同源がさげばれて久しくなりませんが、くわどりゆつたり村旅館の「神無月会席」にみる山菜の見事なお味は、故郷自慢の目玉にしてもよいのではないのでしょうか。薄味の中にそれぞれの山菜がそれぞれの味でしっかりと自己主張していて、なおかつヘルシーで美しい。おはずかしいのですが最近は何国へ行つても、何をいたいても、あまり感動しなくなつていたので、とでもうれしい発見でした。又、初日に旅館に着く前に幸い少し時間があつたので、Jネット事務局の関川様に春日山城跡周辺を案内していただきました。小学校時代何回も遠足で訪れた所ですが、今回の感動はその頃のものと全く違つていて、歴史的意義と、自然の宝庫としての豊かな表情にふれ、大地と森林からのエネルギーを確かな感覚でもらうことが出来ました。

この度の経験を通して、生きる意味の原点と出会いが与えてくれる感動の喜びとで魂の奥深いところまで気持ち良くあたたかくなつてきました。友人を誘つて



又必ず訪れたいと思つています。お世話をして下さった農林水産課の皆様、本当に有難うございました。

稲刈りの 永遠とわに続かむ この文化

はさがけや 黄金きんの中の 友の顔

稲刈りや 昔なつかし かまの音